

静寂の間に  
響きわたる  
カチツ カチツ  
という  
ひょうしぎ  
拍子木の音  
誰かが、  
地域を守って  
くれている



■にせいかい二盛会の火の番

長瀬二区には、二盛会という若者の会があり、毎年、冬になると火の番という行事を行っています。すでに10年以上継続しています。なぜ、継続しているのでしょうか？ それは、みんな地元のことを好きだということ。そして、地域の仲間が集まる食事会のあとに火の番を行っているからです。火の番だけにわざわざ集まるのではなく、ついでに、気楽にやっているから続いているのです。

特集

# 地域力で地域を守る

私たちが、ふだん生活しているなかでふと、心が癒いやすされるときはありませんか  
静寂に包まれた夜に響きわたる拍子木の音  
この音を聞くと「ほっと」した気持ちになるのは、私だけでしょうか  
だれかが地域を守ってくれている  
そう思うと心が癒されてくるのです……  
今回は、地域力で地域を守ることの大切さについて特集します

# 今、求められる地域の力

町では、町内を3地区（東部、中央、西部）に分けて、毎年1地区ごとに防災訓練を行っています。また、災害時の物資提供などについて事前に取り決めをしておく防災協定も締結しています。このほか、地域における自主防災組織の結成を進めるための働きかけや情報提供を行い、組織作りを取り組んでいます。

町では、毛呂山町地域防災計画を策定し、災害の予防、応急対策、復旧などの計画を定めています。また、災害発生時に備え、食糧、防災用資機材などの備蓄、調達体制の整備を

行っています。

## 防災における地域の力

行政機関は、大規模災害が発生した場合に、全力で災害復旧にあたるべく、さまざまな対応を行います。しかし、建物の倒壊、道路の寸断などが発生し、すぐに災害現場に向かうことができないのも事実です。平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などから、家族や地域住民の力によって救助された人が、約8割にのぼるといわれています。

行政機関による災害復旧が本格的に動き出すまでの間は、どうしても地域住民の力で、地域を守っていく必要があります。

総務省が行った「1日前プロジェクト」という事業があります。これは、被災した人に、「もしも被災の1日前に戻れるとしたら、どんな備えをしますか」という質問を行うものですが、その回答で、「ふだんから地域活動を積極的に行うべきだった」とか、「地域で開催されている防災訓練に参加すべきだった」という意見がありました。

## 防犯における地域の力

地域の力が有効なのは、防災に限ったことではありません。防犯についても、地域の力が犯罪の抑止に大きな役割を果たします。

（侵入盗（泥棒）が犯行をあきらめた理由でもっとも多いのは、「近所の人に声をかけられた」「近所の人からじろじろ見られた」というものです。地域の人の目が行き届いている地域には、犯罪も発生しにくいのです。

## 福祉における地域の力

福祉についても、地域福祉の活動が力を発揮しています。

平成19年3月に石川県で発生した能登半島地震で、65歳以上の高齢者が多い、輪島市の旧門前町もんぜんまちでは、29人が負傷、約1000棟の住宅が全半壊し、大きな被害が発生しました。住民の救助活動では、民生委員があらかじめ作成していた「地域みまもりマップ」によって、高齢者などを援護者の安否確認を迅速に行うことができました。

「地域みまもりマップ」は、寝た

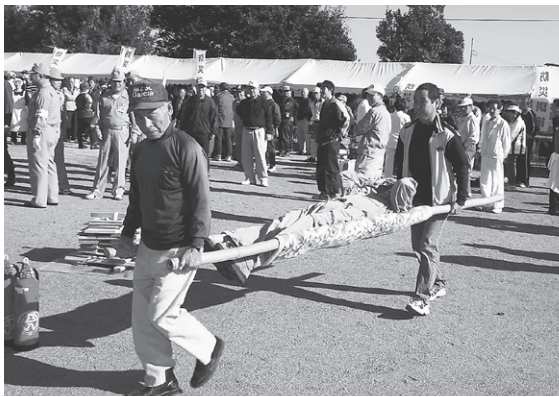


炊き出し訓練

きりや一人暮らしの高齢者などの所在地を蛍光ペンで色分けして明らかにした地図であり、災害時における安否確認や見まわり活動などに利用されるものです。

「地域みまもりマップ」が災害発生直後の安否確認に有効に機能したのは、民生委員などが日ごろのみまもり活動を通じて、高齢者などの所在地が頭に入っていたことや、高齢者などと顔なじみになっていたことが大きいのです。

毛呂山町でも、それぞれの地域において、自主防災・防犯組織の結成、地域みまもりマップ作成など、さまざまな取組が始まっています。



負傷者搬送訓練

# 始まっていきます。自主防災組織づくり

災害時に被害を最小限に食い止めるためには、行政や防災関係機関だけでなく、地域住民の自主的な防災活動による地域での助け合いが必要です。住民が団結して組織的に行動することで、災害発生初期段階などで大きな力を発揮します。町では、平成17年度から自主防災組織づくりを進めています。現在、18団体が活動していますが、今後、さらに多くの地域でこうした取組が行われるよう呼びかけていきます。自主防災組織の結成は、地域の力で地域を守る活動の中核をなす活動です。

**角木<sup>つのき</sup>団地地域安全防災・防犯会 会長 北見<sup>きたみ</sup>勢津子<sup>せつこ</sup>さん**

## 「地域を愛する心」を育てる

角木団地では、平成18年4月に班長などを除く17人で自主防災組織を立ち上げました。人選は、日中団地内において、災害発生時にすぐに活動できる人という条件で考えました。

活動内容は、防犯パトロールと防災活動が主なものです。防犯パトロールは、月に1回、約1時間、防犯用の帽子をかぶり、腕章をつけ、防犯チョッキを着て、誘導棒を持って行きます。団地内を見回り、防犯灯の点検や燃えやすいものが放置されていないかなどの確認、声かけなどを行っています。また、年末には、歳末パトロールとして、自治会から40人から50人が参加して、火の用心を呼びかけます。拍子木<sup>ひょうしき</sup>を鳴らして行うのですが、この日は、20人くらいの子どもも参加してくれました。

防災活動は、昨年、町主催の防災訓練に参加しましたが、今年は、西入間広域消防組合の協力を得て、初期消火訓練などを独自に行う予定です。

現在の悩みは、少子高齢化です。角木団地が分譲されたのは、昭和45年ごろで、すでに38年経過し、住民の高齢化が問題になっています。若い人は、外に働きに行っていますので、団地内に残っているのは子どもと高齢者がほとんどです。そのため、災害が発生したら、救助活動などを行うのは、とても無理です。簡単に解決策は見つかりませんが、地元企業に特別会員になっていただいたり、近隣自治会と交流活動を行うなど、外部の力を借りることも考えて良いと私は思っています。

それから「子ども」がキーワードだと思っています。角木団地では、じゃがいもの植付、じゃがいも掘り、水路清掃や敬老会など、自治会の行事に子どもも参加しています。また、毎年開催している夏まつりでは、団地から出て行った子どもたちも、孫を連れて帰省し、盆踊りを盛り上げ

てくれます。子どもたちは、角木団地を自分たちの故郷だと感じて、毎年、戻ってきてくれるのだと思います。

私の希望は、団地を好きになってもらい、少しでも団地に残ってくれる子どもが増えることです。地域を愛し、地域に関心を持ってくれる人を増やす。そのことが、地域の防災や防犯に役立つのではないかと考えるからです。



わがまち防犯隊コバトンリレーに参加した角木団地の皆さん

## 地域との交流が重要な課題

長瀬駅前交番 田端警部補

長瀬駅前交番では、24時間体制で、パトロール、事件対応、職務質問、立番などの業務を行っています。

パトロールは、昼夜を問わず、泥棒などの事件や事故が多発する地域を重点に行っています。その際、ご家庭のポストなどにパトロールカードを入れて帰ります。住民の皆さんからは、パトロールカードがポストなどに入っていると、安心するという声を聞きます。

警察官は、地域にどんどん出て行って、地域の人に顔と名前を覚えてもらうことがとても大切だと考えています。私は、オートバイで地域を巡回するときには、なるべくスピードを落として走行するようにしています。そうすると、農作業をしている人が手を止めて気楽に声をかけてくれます。時候のあいさつからはじまって、雑談をするなかで、困りごとや地域で発生した軽犯罪などの情報なども聞くことができます。また、どこにどのような人が住んでいて、どんな暮らしをしているのかを把握していないと、災害や犯罪が発生したときにすぐに対応できません。そのためにも、地域の人に顔と名前を覚えてもらって、気軽に話ができる関係づくりを進めていく必要があるのです。



## 地域防犯活動の重要拠点

防犯ボランティア「ゆず」



防犯ボランティア「ゆず」は、「安心・安全な町づくり」を進めるため、平成17年10月1日に発足し、4年目を迎えました。おもに、防犯活動センターを拠点として青パト（青色回転灯搭載のパトロールカー）4台で、子どもたちが下校する時間帯に町内を巡回し、毎週金曜日には、警察官の協力を得て、徒歩によるパトロールを行っています。

また、サマーフェスティバルや産業まつりなどのイベントにもパトロールを行うなど、町・警察・地域のさまざまな団体との連携・情報交換を行い、町内全域の防犯活動を進めています。

防犯ボランティア「ゆず」では、さらに充実した活動を広げるため、ボランティアの人を募集しています。☎ 防犯活動センター ☎ (295) 8181

## みんなで力を合わせて

総庭<sup>そうてい</sup>団地自主防災防犯組織 会長 長谷川美恵子<sup>みづこ</sup>さん

総庭団地では、平成19年8月から自主防災防犯組織を立ち上げています。

メンバーは33人。40歳から80歳代の地区役員で組織されています。地区役員の任期は1年ですが、自主防災防犯組織の任期は2年になっています。

まず、任期を2年にすることで、自主防災防犯組織での活動が上手く引き継がれていく仕組みになっています。また、総庭愛犬パトロール隊（通

称 わんわんパトロール）も組織しています。散歩の途中で防犯などに気を配りながらパトロールを行うもので、任期は散歩ができなくなるまでです。

主な活動は、パトロールと消火訓練です。パトロールは、月2回、7班に分かれて朝、昼、夜の時間帯に行います。パトロールの日程や時間帯は、各班の自主性に任せていて、仕事の都合で、夜だけパトロールする班などもあります。パトロールを

終わると、達成感から気持ちがいっぱいになり、よく眠れるという人もいます。また、消火訓練は、年2回「清掃の日」に合わせて行います。他の行事と一緒に言えば、負担も軽くなります。

また、様々な年代の交流事業として、ふれあいいきいきサロン「総庭すみれ会」を組織しています。若い人から高齢者までを巻き込んで、毎月、ガーデニング、料理、絵手紙、カラオケなどの事業を行ったり、バスを借りて、視察に出かけたりしています。

パトロールや総庭すみれ会の事業を行うことで、地域のことに関心を

持ってくれる人が増えました。私たちは、さまざまな事業を通じて、地域の人びとがお互いのことを知り、団結していくことが、災害や犯罪などから地域を守るに力になると思います。



左後：パトロール隊長 緒方さん、右後：副会長 村山さん  
左前：パトロール副隊長 那須野さん、右前：会長 長谷川さん

# 地域における様ざまな活動

自主防災組織以外にも、地域で様ざまな活動を始めたり、継続して活動している人たちがいます。ここでは、今年の4月から第二団地が始めた、「地域みまもりネットワーク」事業と、毎日登下校で地域の子どもたちを見守る人たちの活動をお知らせします。

お年寄りを見守るあたたかい眼差し

## 第二団地 地域みまもりネットワーク



第二団地「地域みまもりネットワーク」のメンバーの皆さん

第二団地では、今年の4月に「地域みまもりネットワーク」事業を立ち上げました。

この事業は、きめ細かいみまもりネットワークを確立することで、災害などの非常時に、速やかに対処して、被害を最小限にとどめることや町内会の防災意識を高めることを目的としています。

内容は、65歳以上の高齢者のみの世帯を対象に、「みまもりネットカード」と「マップ」を作成して、いつでも声がけできる体制づくりを進めるというものです。

現在、各地区で、みまもりネットカードの作成を進めていて、11月ごろには、完成する予定です。今後、色いろな問題が出てくると思いますが、みんなで話し合っって進めていきたいと思っています。

みまもりネットワーク事業を進めるうえで、最も注意を払ったのは、個人情報保護です。第二団地では、カードに、本人の同意欄を設けています。

## 子どもを見守る地域の目

川角小学校児童の通学路で、子どもたちを見守っている3人の男性（早坂さん、徳井さん、高木さん）。毎日、午前・午後の登下校時に子どもを見守っています。

3人は「子どもたちも顔を覚えてくれていて、おはようございますと声をかけてくれます」といい、「見守りが大変だと思ったことはありません。子どもからパワーをもらっていますし、子どもが好きなので続けられるんです」と明るく話してくれます。これからの目標は、子どもを見守る仲間を増やすこと。そして、これからも続けていくことだそうです。



左から徳井さん、高木さん、早坂さん

## 地域福祉の視点から

役場福祉課地域福祉係 串田和佳 係長

最近では、核家族化や情報網の発達などで、地域との関わりを持たなくても、日常生活が可能となってきました。逆に家族が担ってきた教育や高齢者などを扶養していく力などが弱まってきています。

地域においても、地縁組織（自治会、町内会、婦人会など）と行政の連携によるコミュニティが難しくなり、結果として、くらしの安全を脅かされるような出来事も発生してい

ます。

当町でも、毎年、高齢者のみ世代が増加傾向にあり、日ごろから民生委員・児童委員を中心として、高齢者などの見守り活動を行っています。しかし、それでも、孤独死などの悲しい事件が発生してしまっています。

このような問題は、制度やサービスの創設や拡充だけでは解決できません。やはり、失われつつある人と

人とのつながりを見直すことが大切ではないかと思えます。

平成19年に発生した能登半島地震では、高齢者などの安否確認が速やかに行われたという事例が報告されています。

これは、まさに地域での人と人とのつながりや交流により、ともに生きることを可能にするような福祉文化が生まれたこと。そして、そこに住む住民によって、地域で助け合うコミュニティの形成が行われたことが、大きな力を生み出す原動力になったのだと思えます。

また、高齢者の理解と協力を得るためには、町内会として事業を行っていることを前面に打ち出すことが重要だと考えました。区長と民生委員が一緒に地域を巡回することで、なるべく安心して協力してもらえるように配慮しました。

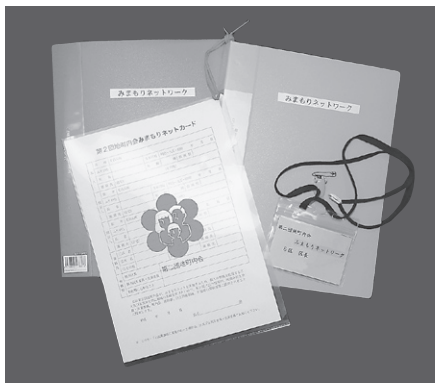
見守りネットワーク事業の立ち上げに携わったのは、第二団地の各区長と民生委員12人のメンバーですが、規約を作成するときなどは、それぞれの立場で、激しく意見を戦わせました。そのおかげで事業に対する理解も深まりましたし、なによりも、区長と民生委員が腹を割って話し合えたことが大きな収穫でした。

みんなが納得したうえで作り上げたので、区長と民生委員の連携もうまくいったのだと思います。

第二団地では、小学生の下校時間に合わせて独自に放送を行ったり、自主防災組織を立ち上げるなど、さまざまな活動を行っているという基盤があります。このため、第二団地で行った方法が、そのまま他の自治会で通用するとは限りません。しかし、今後、どの地域でも必要になる事業だと思っています。

民生委員の一人は、カードを作成するために各家庭を回ったことで、地域のことが良くなるようになってきたと思います。また、門前払いで、

協力してもらえない人も一部にはいますが、「いい制度を作ってくれましたね」と感謝される場合がほとんどです。ですから、このような事業が町内各地で進められるようになれば素晴らしいと思います。



みまもりネットカード

## 地域を愛する心の大切さ

今回の取材を通じて感じたことは、地域で活躍している人びとが、「地域を愛する心」を持っているということだと思います。

地域を愛しているから、地域のことや気になる。地域のちょっとした変化に気づく。ゴミが落ちていれば拾い、枯れ草があれば刈り取ったり、土地所有者に火災の危険があると伝えたりする。困っていることがあれば、みんな考えて解決していく。そういったことを素早く行える人が多く住んでいる地域は、組織もしっかりしていて、地域活動などにも積極的に取り組んでいると感じました。

また、犬の散歩、児童の見守り、声かけなど、ふだんの生活のなかで行われているさまざまな活動も地域の力として機能しています。仕事や家事など、忙しい毎日のなかで、ほんの少し地域に目を向ける時間をつくる。そういった努力をすることも地域を支える力になるのではないのでしょうか。